英語科

教科領域研究テーマ
【自分の気持ちや考えを表現し伝える力の育成】



英語科

自分の気持ちや考えを表現し伝える力の育成

実　践　者　濵田眞基子，河野　圭美，河野　　操
愛媛大学研究パートナー　池野　　修，立松　大祐，富田　英司

第１章　はじめに

グローバル化の進展に伴い，国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要であるとされ，今，我が国では英語教育改革が進められている。また，東京オリンピック・パラリンピックを見据え，外国語を用いたコミュニケーションを行う機会が格段に増えることが予想されている。英語科の学習において，基礎的・基本的な知識・技能を活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成することは欠かせない。また，それらの力を備え，情報や考えなどを積極的に発信し，相手とコミュケーションをすることが大切である。

本校では，持続可能性が危機にある現代社会において，子どもたちが現在及び将来にわたって「持続可能な社会を形成し，それを支え続ける」ために主体的に行動できる資質・能力を育てることが「未来を拓く力」につながると考え，研究を進めている。本校英語科では，「持続可能な社会を支える資質・能力」として，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を高めることが必要であると考え，「論理的思考力や表現力の育成」，「コミュニケーションスキルを磨く学習指導」，「パフォーマンス評価の充実」を研究内容とした。具体的に本年度は，３学年を見通した論理的思考力や表現力育成の視点を取り入れた「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標を設定する。次に，学習到達目標（評価規準）を設定し，ルーブリック（評価基準）を作成し，パフォーマンス評価を実施した。また，パフォーマンス評価の実施には，一度に数時間分の授業時間数が必要であるため，授業を効率的かつ効果的に進める必要があると考え，デジタル教科書を活用した授業の実践を行った。ICTの活用は，学習者の英語による言語活動の増大にも効果的である。

これらの実践を通し，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を高めることが，持続可能な社会の形成につながるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

研究	研究者	研究テーマ	学年	単元名
その１	濵田眞基子	談話能力が育つ学習活動の研究 －パフォーマンステストを通して－	１年	Chapter ２Project ○○さんを紹介しよう
その２	河野　圭美	自律的学習者が育つ英語授業 －パフォーマンステストの実践より－	２年	Chapter ２Project 旅行の計画を立てよう
その３	河野　　操	ディスカッションの成功を目指した学習活動の研究	３年	Chapter ４Project 自分の意見を言おう

第２章　研究の実際

研究（その１）

談話能力が育つ学習活動の研究

― パフォーマンステストを通して ―

（実践者）濵田眞基子

１　研究テーマ設定の理由

社会のグローバル化が急速に進み，情報が溢れ，変化の激しい時代となった今日，自分の考えを整理して伝える言語力が求められている。生徒の日常生活において，外国人とコミュニケーションする機会が多くなっている。そして，国内外で，英語を使い人前で発表する機会は今後も多くなってくると考えられる。それは同時に，発表した内容に関して臨機応変に英語で返答し，質問や意見・感想を返す力も求められていることを意味する。これからのことから，持続可能な社会の形成に向け，コミュニケーション能力の構成概念の一つである「談話能力」を伸長させる必要があると考える。

英語科における「談話能力」とは，単文レベルではなく，まとまりのある談話や文章を構成する能力のことである。「談話能力」を伸長させるためには，中学１年生の段階では，つながりのある英語の文章を書いたり話したりできる力を身に付けることが必要である。具体的には，「英語で書かれたり話されたりする情報・事実や課題の背景や原因・理由をしっかりと考えてみること」，そして「相手が理解できるように，筋道立てて分かりやすい英語で表現すること」である。このような論理的な思考の伸長と表現力の育成を図る学習活動を数多く確保することで，今日求められている言語力を育てることができると考える。発信された内容から既習の文法や表現を用い会話を継続させ，コミュニケーションが成立するような表現活動を多く取り入れていくことが望ましいと考えられる。

そこで，中学校３年間を見越した連続性，発展性のあるスピーチ活動を通して「聞く・話す・読む・書く」の４技能を総合的に育成し，自分で考え，さらに自分の考えを論拠とともに論述する力を育成できると考えた。論理的に思考し表現する力は，スピーチ原稿作りの段階で鍛える部分と，スピーチ発表及びそれへの反応の部分で鍛えられる部分がある。英文ライティングで培った論理的な思考力・表現力をスピーチで表現し，そのスピーチに関する問答を通して即興でまとまりのある談話を構成する力を育成することで，教科領域研究テーマに掲げている「自分の気持ちや考えを表現し伝える力」とともに，他者の気持ちや考えを尊重し，積極的にコミュニケーションを行う力を育てることにつながると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容及び方法

CAN-DOリストを活用してパフォーマンス課題を設定し，教員と生徒がルーブリックを共有し体系的な指導を行った上で，論理的に思考し表現する協同の学び合いの場となるような学習活動を確保した。さらに，自己評価や相互評価活動を通して，談話能力の育成につなげた。そして，これらの手だての効果を検証するためのパフォーマンステストを，中学１年生２クラス（計79名）を対象に，平成28年７月と平成28年11月の計２回おこなった。

(1)　活用型学習活動の充実

「習得→活用→習得→活用」といった往還的な流れの学習活動を展開する。「習得」は新しい言語材料を理解，取得，定着させるための学習活動である。「活用」は，実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの学習活動である。持続可能な社会づくりの視点から，グローバル化し，変化の激しい知識基盤社会を生きるのに必要な力，学校だけでなく，人生を通じて発達させる力としてのコミュニケーションを行う力を身に付けられるよう活用型学習活動を充実させる。特に，「音読した本文を自分のことや身の回りのことに置き換えて書いたり話したりする活動」を効果的に設定する。活用型の充実により，「習得から活用へ」という一方的な流れではなく，「習得したことを活用する」「活用しながら習得する」といった，往還的な学習方法で，習

得した言語材料を定着させることにもつながる。

(2) 「他を知り自己を知る」協同の学び合いの場の構築

ペアやグループでのロールプレイやスピーチの原稿作り・発表などの学習過程の中での話合いを充実させ，学び合いの質を高める。生徒同士のピア・フィードバックを取り入れることで，自分自身が書いたり話したりする際，６Ｗ１Ｈの型を意識して論理的な思考力と表現力を発揮しながら客観的に誰にでも分かるように表現しようといったメタ認知が自然と育ってくるような学び合い学習を展開する。

(3) 学習の質を高めるための評価

本校で作成したCAN-DOリストを基に，ルーブリックを作成し，到達目標への自分の達成度を確認させながら，すべての生徒が身に付けたことを活用して学び合うことのできる学習活動を展開する。また，パフォーマンス課題をルーブリックによる相互評価を通して互いの成長を実感できる活動として効果的に設定し，英語を使ったコミュニケーションに対する自己効力感の醸成につなげる。

３　研究の実際

(1) 生徒の実際

生徒（79名）の多くは，小学校外国語活動において，英語の音声やリズムに慣れ親しんでおり，英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験している。こうした体験が中学校でも生かされ，７月には自己紹介に関するパフォーマンス課題に熱心に取り組み，自分の言いたいことを様々な方法でなんとか伝えようとする態度が見られた。その際，提示されたルーブリックの観点を目標とし，つなぎ言葉を用いたり相手の話した内容を広げるような質問をしたりして，なんとか会話を継続させていた。９割の生徒が初めてのパフォーマンステストに「緊張した」と答えたが，相手の自己紹介に関する質問をするために熱心に聞く姿勢も見られ，コミュニケーションが成立するのに大切なことを実感できたようであった。７月の時点では，既習表現が１・２人称のみで動詞を変化させる必要はなく比較的英語用法の間違いは少なかったが，文の構成に関しては，自分の好きなことや普段していることを表す英文を羅列する自己紹介文になっているものが見られた。文と文のつながりや順序立ててまとまりのある英文にする指導が必要であることが分かった。また，その後，自分が表現したい内容を日本語で考え，それをそのまま英語にしようとして英語の語順を無視したり，和英辞書で調べた単語をそのまま使って伝わらない表現になったりすることもあった。そのため，英文を作成する段階のライティング活動で，論理的に相手に分かりやすく伝えるための思考力や表現力を育成する指導の工夫が必要であると考えた。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

スピーチの指導をするに当たり，次の三点に重点を置き指導した。

ア 「書くこと」における指導

「論理的思考力・表現力」を育成するために，スピーチ文を作成する段階のライティング活動を重視した。音声によるアウトプットは一瞬のうちに消えてしまうが，書き言葉にして思考を可視化することによって，自分の考えを客観的に，そして批判的に判断できるようになる。また，書いたものを前にして，どのようにしたら自分の考えをより効果的に読み手に伝えられるかと自問することは，「問題解決」の力を養うことにつながる。具体的には，スピーチで使う表現を実際のコミュニケーションに近づけるために，スピーチ原稿を作成する際にどのような語句や表現を使用して論理的に書くか思考・判断させた。例えば，「接続詞を使って順序立てて話す」「事実や理由を具体的に話す」「自分の気持ちや感想を話す」，などである。

このライティング活動では，一度スピーチ原稿を作成した段階で，他の生徒の評価を加味し，もう一度推敲する活動を行うことによって，より完成度の高い表現活動にさせた。このような生徒同士の学び合いが，「論理的に思考し表現する学び合い」となるよう，ルーブリックを作成し，自己評価シートや相互評価シートの工夫を図った。

イ 「話すこと」における指導

スピーチを発表する際にカットアウトピクチャーを活用させた。これは，作成した英文の内容に関する絵や写真を，１枚の紙に順序立てて提示させたものである。原稿を見ない状態でも話し

手が絵や写真をもとに順序立てて話したり，聞き手がそれを見て内容に関連する質問をしたりする手立てとした。１年生の段階では，このような手立てによりスピーチの内容に関して問答し合わせることで会話の継続を促すとともに，話し手の表現力や態度について意見や感想を述べ合う活動に発展させた。問答する際は，「聞き手に正しく伝える」力，「情報や話し手の意図することを把握する」力を育成し，「論理的に思考し表現し合う学び合い」となるよう，６Ｗ１Ｈを意識した問答ゲームの型を活用させることで，理由や根拠を思考，表現させた。スピーチの発表形態は小グループ単位とし，スピーチを発表するグループと質問や意見・感想を述べるグループに分かれさせた。この形態をとることにより，一斉の発表形態よりも一人一人が比較的容易に会話を継続することができると考えた。

評価については，本校で作成したCAN-DOリスト（**表１**）に基づき，高円宮杯全日本中学校英語弁論大会でも採用されている観点（内容・英語・表現）を参考にルーブリック（**表２，表３，表４**）を作成した。

ウ　「聞くこと」「読むこと」における指導

「聞くこと」「読むこと」における指導では，今年度導入したデジタル教科書を主に活用した。「聞くこと」においては，Listening コーナーにおけるまとまりのある英文を聞かせた後，その概要をペアで伝え合わせ，そのスクリプトの英文を見せて確認した。すぐにスクリプトを見せられるのはデジタル教科書の利点の一つである。また，ALTとの授業では，ALTの自己紹介をメモさせながら聞かせ，そのメモをもとに英文を書かせた。「読むこと」においては，教科書の本文の内容に，自分の意見や感想を付け加えたり，対話文の人物になりきって質問や会話を続けたりする活動を行った。また，デジタル教科書の視覚的な手立てを活用しながらオーバーラッピングを重点的に行い，英語の対話のリズムに慣れさせることを目指した。

(3)　授業の実際

ア　指導の実際

(ア)　単 元 名　TOTAL ENGLISH Chapter 2 Project　○○さんを紹介しよう

(イ)　単元目標

○友達や家族などを紹介するまとまりのある文章を５～６文程度で書くことができる。

○書いた文章をスピーチとして発表し，質問されたことに答えたり，友達のスピーチを聞いて質問したり感想を言ったりできる。

〔本質的な問い〕

相手に，分かりやすく人物を紹介したり，紹介された人物について質問したり感想を言ったりするためにどうしたらよいか。

〔永続的な理解〕

相手にわかりやすく人物を紹介するためには，論理的に英文を構成するとともに，スピーチ内容や発表態度の工夫が必要である。英語で論理的に表現する力を身に付けるためには，順序立てて話したり根拠や具体例をあげたりするとよい。また，互いのスピーチ内容に関連する問答をする際に，６Ｗ１Ｈを意識して質問したり，応答に情報を付け加えて答えたりすることが大切である。さらに，意見や感想を述べる際に理由を伝えるようにすると，互いの理解が深まる。人物紹介を題材にやりとりをするには，３人称単数現在時制の動詞に気を付けて英文を作ったり問答をしたりすることが必要になる。

(ウ)　評価目標と評価方法

<table>
<tr><th>評　価　目　標</th><th>評　価　方　法</th></tr>
<tr><td>① モデル文を参考に，筋道立ててまとまりのあるスピーチ文を書いている。
② 書いた文章をスピーチとして発表し，積極的に質問されたことに答えたり，友達のスピーチを聞いて質問したり感想を述べたりしようとしている。
（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）</td><td rowspan="2">◎パフォーマンス課題
ＡＬＴの先生やクラスのみんなに，友達や家族などあなたの身近な人について紹介します。スピーチとして，その人に関する絵や写真を実際に見せて紹介してください。これまでに習った表現を使って，その人の魅力や事実とその理由を，聞き手に分かりやすい順序で具体的に説明しましょう。そして，互いのスピーチについて，主語に気を</td></tr>
<tr><td>③ 友達や家族などを紹介するまとまりのある文章を，接続詞や文のつながりに留意して５～６文程度で書くことができる。
④ 友達や家族など身近な人について，絵や写真を使って，正確に伝わるようにスピーチをすることができる。</td></tr>
</table>

⑤ 主語に気を付けたり６Ｗ１Ｈを意識したりして，スピーチ内容に関連した質問をしたり感想を述べ合ったりしている。返答する際，必要な情報を付け加えている。（外国語表現の能力）	付けたり６Ｗ１Ｈの問答ゲームの型を意識したりして，内容に関連した質問をしたり感想を述べ合ったりしましょう。返答する際，必要な情報を付け加えましょう。（②④⑤⑥⑦） ○観察・パフォーマンステスト（②④⑤⑥⑦） ○ワークシート（①③⑦） ○ペーパーテスト（③⑦）
⑥ スピーチの内容や話し手の意向，また，スピーチに関する質問や答えを聞き取り，理解することができる。（外国語理解の能力）	
⑦ be動詞と一般動詞の用い方の違いや，人称による動詞の変化に関する知識を身に付けている。（言語や文化についての知識・理解）	

表１　１年生 Chapter ２におけるCAN-DOリスト

話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	書くこと	聞くこと	読むこと
家族や友達，あこがれの人を紹介し合い，簡単な英語でその人について質問したり答えたりすることができる。	家族や友達，あこがれの人について，文のつながりに注意したり自分の気持ちを付け加えたりして，聞き手に分かりやすく伝えることができる。	家族や友達，あこがれの人について，自分の気持ちを付け加えて，５文程度で書くことができる。	家族や友達の紹介，曜日や時刻，校舎の案内などを聞いて，メモをとるなどしてその内容を正確に理解することができる。	家族や友達，あこがれの人に関する平易な英語で書かれた紹介文や対話文を読み，イラストや写真を参考にしながら，概要を理解することができる。

表２　スピーチ原稿のルーブリック

項　目		得点	評　価　基　準
論理的な思考力・表現力	英文構成	3	１つのトピックに対して，but（しかし），so（だから）などの接続詞を使うなどして，理由や事実を含んだ２～３文のつながりのある文章が書ける。
		2	１つのトピックに対して，but（しかし），so（だから）などの接続詞は使っていないが，理由や事実を含んだ２～３文のつながりのある文章が書ける。
		1	１つのトピックに対して，２～３文のつながりのある文になっていない。
	スピーチ内容（先生がチェック）	3	それぞれのトピックに対して，事実を具体的に詳しく表現することができており，言っていることがよくわかる内容である。
		2	それぞれのトピックに対して，事実を表現することができてはいるが，具体性に欠ける。
		1	いくつかのトピックを１文ずつ程度，表現するだけになっている。

表３　スピーチ発表のルーブリック【Speaker用】

項　目		得点	評　価　基　準
話しぶり	• アイコンタクト • 声のとおり • ジェスチャー	3	相手をしっかり見て，十分とおる声と，自然なジェスチャーを使って話すことができる。
		2	相手を見て，十分とおる声で話せているが，自然なジェスチャーが使えていない。
		1	相手を見てはいるが，声がとおっておらず，自然なジェスチャーも使えていない。
論理的な思考力・表現力	質問への応答	3	質問された内容を正確に聞き取り，答えに関連した１文を付け加えて返答することができる。
		2	質問された内容を正確に聞き取り，英文で返答することができる。
		1	質問された内容を正確に聞き取り，英単語で返答することができる。

表４　スピーチ発表のルーブリック【Listener用】

項　目		得点	評　価　基　準
論理的な思考力・表現力	質問	3	６Ｗ１Ｈを使った英文で，スピーチ内容に関連する質問をすることができる。
		2	Yes／No で応答できる英文で，スピーチ内容に関連する質問をすることができる。
		1	スピーチ内容に関連する質問をすることはできないが，話し手に話題を振って質問することができる。

論理的な思考力・表現力	意見・感想 ※今回は日本語ＯＫ	3	スピーカーの表現力について，よかったところとその理由を伝えることができる。
		2	スピーカーの話しぶりについて，よかったところとその理由を伝えることができる。
		1	スピーカーの表現力や話しぶりのよかったところは伝えているが，理由は言えていない。
コミュニケーション・ストラテジー	• あいづち • つなぎ言葉 • (相手が言ったことの)繰り返し	3	あいづち，つなぎ言葉，繰り返しなど，どれか２つを使うことができる。
		2	あいづち，つなぎ言葉，繰り返しなど，どれか１つを使うことができる。
		1	コミュニケーション・ストラテジーはほとんど使えていない。

(エ) 指導計画（全５時間）

学習内容	◇評価規準（観点）	時間
○家族や友達など自分の身近な人について文のつながりや構成に留意して，まとまりのある紹介文を書く。 ○グループで互いの紹介文の推敲を行う。 ○順序立ててカットアウトピクチャーを作成する。 ○グループ発表を行い，自己評価と相互評価を行う。 ○相互評価を踏まえて，個人による推敲を行う。	◇文のつながりや構成に留意し，適切に接続詞を活用したり，事実や理由を具体的に表現したりして，スピーチ文を書いている。（関心・意欲・態度）（表現） ◇未習の表現は，平易な文で言い換えるなどして工夫して書いている。（表現） ◇be動詞と一般動詞の違いや，人称による動詞の変化を理解してスピーチ文を書いている。（知識・理解）	3
○パフォーマンステストを行う。小グループ単位でスピーチを発表し，評価活動を行う。	◇パフォーマンス課題について，豊かな表現力でスピーチを行っている。（関心･意欲･態度）（表現）（理解）（知識・理解）	2

(オ) 授業の実際（４／５時間）

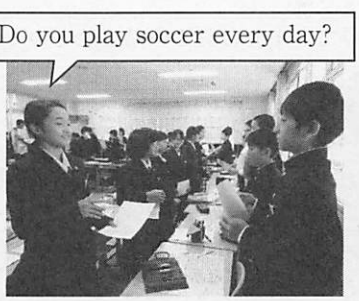
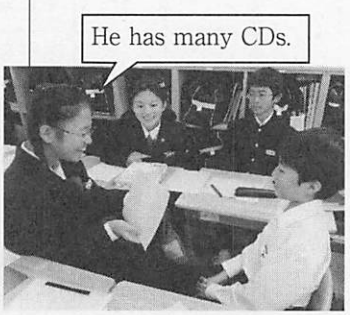
① 主　題　身近な人を題材に対話しよう

② ねらい

○身近な人について，相手に分かりやすく紹介し，積極的に質疑応答を行おうとする。

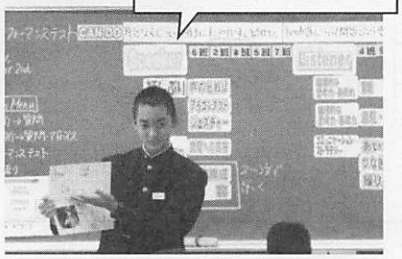
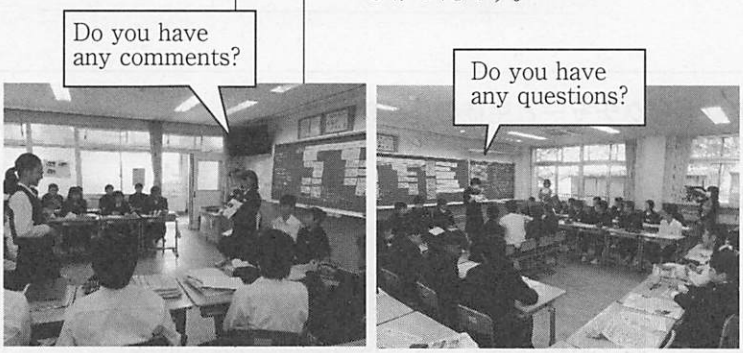
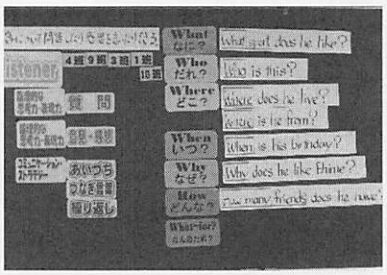
○互いのスピーチに関する問答をしたり，理由や根拠を示して意見や感想を述べ合ったりすることができる。

③ 展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ • 生徒の主な反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　ペアで自己紹介スピーチをし終えた後，質問し合う。（ペア）	3	○ヒントカードを使って相手にわかりやすく自己紹介し，英語で質問し合おう。  ペアでの学び合い  グループでの学び合い	○順序立てて説明できるように，ヒントカードを使わせた。
2　４人程度のグループで，自分のペアについて１分以内で紹介した後，質問し合う。	12	○ペアの相手のヒントカードを使い，グループの人に紹介しよう。終わったら，英語で問答したりアドバイスし合ったりしよう。 • 三人称単数の s を付け忘れているよ。 • 目線に気を付けて。	○ペアの相手のことを順序立てて説明できるように，相手のヒントカードを使わせた。

（グループ）

CAN-DO 家族や友達など身近な人について相手に分かりやすく紹介し，その内容について問答したり意見や感想を言ったりできる。

3　パフォーマンステストを行う。4人程度の1グループが一人ずつ順番にスピーチを行う。別の4人程度の1グループがスピーチに関する質問をする。 （グループ）	30	○4人程度の1グループが一人ずつ順番にスピーチを行う。 スピーチ This is my sister, ○○.  **カットアウトピクチャーの活用** ○別の4人程度の1グループのメンバーがスピーチに関する質問をしたり感想を言ったりしよう。 質問 A：Do you have any questions? B：Where does she go to school? （正しくはWhich school does he go to?） A：He goes to ○○ elementary school. 意見・感想 A：Do you have any comments? B：1つのことを2～3文で詳しく説明できていて，よく伝わってきてよかったです。  **質疑応答を通してコミュニケーションをとる様子**	○一人一人の生徒が比較的容易に英語で質問できるよう，少人数の形態にした。 **○論理的に思考し表現する力の学び合いを促進するため，スピーチの発表の際，トピック順に絵や写真を掲載したカットアウトピクチャーを活用して順序立てて表現させた。【協同】** ◇相手に分かりやすく話し，積極的に質疑応答を行おうとしている。 （観察・ワークシート） **○論理的に思考し表現する学び合いをさせるため，6W1Hの問答ゲームの型を活用させたり理由や根拠を述べさせたりして，質疑応答をさせた。【協同】**  **質疑応答を促進する手立て** ◇スピーチの内容に関する問答をしたり，理由や根拠を示して意見や感想を述べたりすることができている。 （観察・ワークシート）
4　本時の学びを振り返る。 （個人）	5	○自分の気持ちや考えを表現するとともに，他者の気持ちや考えを尊重するためにどのようなことが大切なのか振り返ろう。 • 相手にもっといろいろな質問ができるようになりたい。 • テストで自分のできること，できないことがよくわかった。日々の練習が発揮できた。 • 友だちの応答を聞いて，その人の理解が深まった。	○本時の学びがグローバル社会において主体的に行動する力につながるよう，パフォーマンステストを通して意欲を高めた。 ○自分の到達状況を客観的に把握し，明確な目標をもって学習に取り組めるよう，ルーブリックを使って自己評価をさせた。

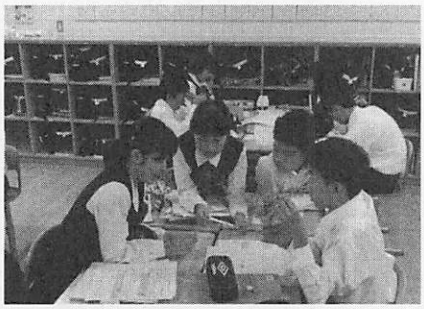
イ　生徒の学びの実際

パフォーマンス課題で用いたルーブリックの結果と生徒の振り返りは，以下の通りである。

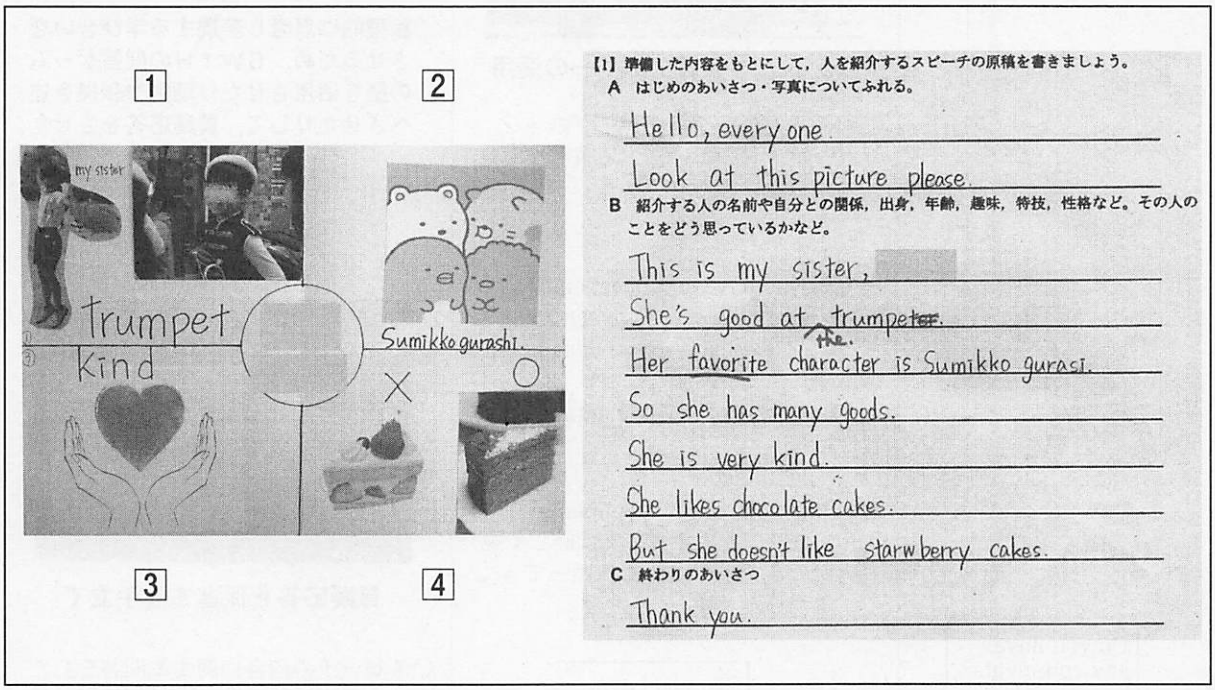
①　ライティングの評価（教師による評価）

（１年生２クラス79名対象）

論理的な思考力・表現力	英文構成	３点	28人
		２点	44人
		１点	７人
論理的な思考力・表現力	内容	３点	20人
		２点	50人
		１点	９人



グループで英文を推敲する様子



カットアウトピクチャーと生徒の作品例

グループで英文を推敲した後の生徒の振り返りより

(a)　友達に積極的にアドバイスすることができたか。
○似たような文を書いていたので，減らしたらいいとアドバイスできた。（英文構成） ○ジャンルがスポーツに固まっていたので，他の話題も増やすように言った。（英文構成） ○「おば」という単語の言い方がわからなかった友達に，「お父さんのお姉ちゃん」としたら，と言えた。 ●わからない単語が多かったので，あまりアドバイスすることができなかった。

(b)　友達のアドバイスは役に立ったか。
○母が日曜日にドライブすると書いたが，どこに行くかなど具体的に書いてなくて１文付け加えた。（内容） ○自分の文章を客観的に見られた。自分が思いつかない表現の仕方や付けたしたらいい文を見付けた。（内容） ○very などを付けることで，その言葉が強調できるのが分かった。（内容） ○接続詞の so を省いて逆にスッキリした文になった。最初は変だった。（英文構成）

② スピーキングの評価（教師による評価）

【Speaker用】（１年生１クラス40名対象）

項　目		得点	第1時間目	第2時間目
話しぶり	• アイコンタクト • 声のとおり • ジェスチャー	3点	8人	12人
		2点	12人	7人
		1点	0人	1人
論理的な思考力・表現力	質問への応答	3点	3人	11人
		2点	15人	9人
		1点	2人	0人

形成的評価（教師による評価）としたため，１クラス分のみの人数をここでは記載している。

【Listener用】（１年生１クラス40名対象）

項　目		得点	第1時間目	第2時間目
論理的な思考力・表現力	質問	3点	8人	16人
		2点	10人	3人
		1点	2人	1人
論理的な思考力・表現力	意見・感想 ※今回は日本語ＯＫ	3点	4人	9人
		2点	13人	11人
		1点	3人	0人
コミュニケーション・ストラテジー CS	• あいづち • つなぎ言葉 • 繰り返し	3点	0人	3人
		2点	20人	17人
		1点	0人	0人

パフォーマンステスト後の生徒の振り返りより
[1]…第１回目の振り返り／[2]…第２回目の振り返り

Speakerに関連する振り返り		
話しぶり	• アイコンタクト • 声のとおり • ジェスチャー	[1]書くことは簡単でも，表現（声に出す）するとなると，とてもむずかしかったので毎日の音読は大切だと思った。 [1]テストをして，声のとおりとアイコンタクト，やっぱりこの２つはとても大事なのでは，と思いました。 [2]相手に声が届いているか考えた。１回目に声が小さい人のは聞き取れなかったので。
論理的な思考力・表現力	質問への応答	[1]他の人が１文付け加えているのが参考になった。小さなコミュニケーションができてよかったと思う。 [2]第１回目と違って一人一人が自信をもって発表できていました。スピーチする人は質問に１文付け足して言えていたので内容がよく分かった。 [2]質問するのは思ったより難しかったです。外国の人に質問や応答するために，英文の聞き取りをもっとがんばりたいなと思った。今日（第２時間目）は，だいたいの人が相手に応答してもらったときにお礼を言えていたと思う。 [2]社会人になった時，説明をする場面で役立ちそうだと思うので，物事を詳しく説明できるように練習する。
Listenerに関連する振り返り		
論理的な思考力・表現力	質問	[1] １つの文ごとに聞かずに，前後の文のつながりを意識して聞くと，感じ方も変わり聞き取りやすくなる。だから，文と文のつながりを意識できるようにしていきたい。 [1]相手の話をもらさずに聞き取り，疑問に思ったことを瞬時に文章化して質問することの難しさを感じた。 [2]自分以外の質問を聞いていると，考えなかったことや，的確に質問しているのを聞いて「自分だったらこんな質問をする」などの思考力が身に付いたと思います。 [2]相手の話していることにしっかりと耳を傾け，どんなことを次に話すのか考えながら聞くとよい質問ができるのではないかと思った。
論理的な思考力・表現力	意見・感想 ※今回は日本語ＯＫ	[1]友達の発表を聞いて，スピーチの内容をよく聞いて新しい表現を発見できた。 [2]コメントするときも ６Ｗ１Ｈ の内容で詳しく言うことができるといいと分かった。
CS	• あいづち • つなぎ言葉 • 繰り返し	[2]相手が答えてくれたらThank you.と言っている人が増えた。 [2]「“Hello” とあいさつされたらみんなで返すと雰囲気がよくなった。人の言ったことに対して反応することを学んだ。
その他	[2]これから授業での先生からの質問に１文付け加えて答えるように練習していきたいと思った。そして，将来外国人と話すとき，質問されたとき１文付け加えて応答すると分かりやすくなると思うので生かしていきたい。	

パフォーマンステストの必要性	○テストの形ですることで自分のできること，できないことがよく分かるし，他の人の発表や質問もとても参考になる。日々の練習を発揮できる。 ○質問に対する応答で新たな表現の発見があり，その人の理解が深まった。 ○習ったことを使える！に発展させていくことができる活動だと思う。 ○コミュニケーションが英語でもとれるようになった。また，質問するために人の話を前よりも一生懸命聞くようにがんばる。 ○書くだけではなく，話してみることでコミュニケーション力がつく。また，こんな質問にはこんなふうに答えるんだ！と学べる。 ○自国とは違う言語で友達と話せるようになってうれしい！

テスト後，パフォーマンステストは「好きか」という問いに，生徒（79名）の89%が「好き」，11%が「好きではない」と答えた。その主な理由は，「緊張しすぎて言いたいことがスラスラ言えない」からであった。しかし，全員の生徒がパフォーマンステストは「必要である」と答えた。ほとんどの生徒が，「楽しい」という理由以外に，コミュニケーション力，英語力（論理的な思考力・表現力），仲間との関わり（協同の学び合い）のいずれかの大切さに言及していた。また，半数以上の生徒が，次のパフォーマンステスト（２月）に向けて身に付けたい力として，問われたことに対して「即興で答えるようになること」や「一文付け足して答えること」を挙げていた。

ウ　考察

①　ライティングについて

できあがった作品を見ると，英文構成も内容もよくできているもの，２～３文のつながりをよく考えて英文構成はよくできているが内容が単調なもの，ユーモアのある内容だが文法の間違いが多く英文構成が不十分なもの，などに分類できた。英文構成も内容も不十分なものと思われるものも中にはあったが，英文の羅列に終わらないよう努力の跡が見られた。

１年生の11月の段階で使用可能な接続詞 but 以外に so の用途例を示したが，内容からして不自然な接続詞の使い方をしているものも多くあった。グループで生徒同士の練り合いや推敲を通して，トピックの増減や具体例を一文増やすことなど，より分かりやすい紹介文になったものが多かった。未習語をどうしても使いたいという場合は，１語程度にして 'Respect' is '尊敬する' in Japanese. などと日本語で説明を付け加えるという条件を出した。できるだけ，未習語を使わない方法を生徒同士で見出す発言も聞かれた。

②　スピーキングについて

第１時間目から第２時間目にかけてのパフォーマンステストを評価してみて，ルーブリックのどの項目も明らかに伸びているのが分かった。教師の予想をはるかに超えた生徒同士による高め合い，つまり，相乗効果によるものであった。１クラス目の評価をしてみて，今回のパフォーマンステストは生徒同士の学び合いの場として捉えた方がよいことが明確になったため，２クラス目のテストは形成的評価として実施することとした。そのため，ルーブリックの人数は，１クラスのみの結果となっている。

第２時間目で予想以上の伸びが見られた理由は，前回のパフォーマンステスト（７月）での課題を生徒自らが達成しようとかなりの準備をしたことや，普段，教科書本文の内容理解において「音読した本文を自分のことや身の回りのことに置き換えて書いたり話したりする」活動をしてきたことに加え，理由は主に二つあった。一つ目は発表形態をコの字型で小グループ対小グループにしたことで比較的容易に会話ができる学習環境であったこと，そして，二つ目は何より互いの発表を聞くことで意欲が高まったり互いの発表のよいところを取り入れたりしたことが要因であった。また，協同の学び合いということに加えて，生徒はテストとして捉えて臨んだため，個々の生徒の発揮する力がかなり大きくなり，それとともに教師の予想をはるかに超えた生徒同士の学び合いの姿が見られた。

具体的に，スピーチの発表態度や質疑応答の内容に変化が見られた点を挙げる。スピーチに対する良かった点に理由を付けて伝え合うことで，スピーチ発表や質疑応答の質が上がった。例えば，第２時間目での Speaker に関して言えば，質問への応答に一文付け加えてより詳しく答

える生徒が増えるとともに，同じ内容の質問を Listener に投げかける様子が見られた。また，Listener に関しては，自分の質問に答えてもらった後に“Thank you.”と返答したり，中には前者の質問に関連した質問をしたりする姿も見られた。第１時間目のパフォーマンステストでは，教師はテストということを念頭において間違いの指摘をあまりしなかったが，生徒は関わり合いの中で他者の発表や評価を自分に生かして，自ら課題を見いだした。

以上のように，発信されたスピーチに対する質疑応答やコメントのやりとりは，これまでに習得した言語材料を試行錯誤しながら用い，互いの考えや気持ちを伝え合う場となった。本物のコミュニケーションの一コマを見ているようなやりとりがいくつか見られた。

今回のパフォーマンステストは，結果的に学習者の学習促進のための評価とした。スピーキングの総括的評価については，２月に予定しているパフォーマンステストで行うこととした。

③　持続可能な社会を支える資質・能力が育つパフォーマンス課題と評価の工夫

パフォーマンス課題を取り入れ，ルーブリックを作ったことにより，論理的に思考し表現する学び合いをさせるのに必要な内容が明らかになり，評価規準がより分かりやすくなった。また，ルーブリックにより，評価の透明性や一貫性，効率性が高まっただけでなく，生徒の学習をフィードバックしたりサポートしたりすることができた。そして，単元のねらいから「本質的な問い」「永続的な理解」を考えることにより，生徒が何をできるようになることがねらいなのかといった授業のねらいと見通しが明確になった。また，授業の組立や指導の工夫についても十分検討することができた。生徒は，ルーブリックを使うことにより，目標とする学習のレベルを把握した上でパフォーマンス課題に取り組んだ。そして，コミュニケーション力を身に付けるにあたって自分自身に不足している力に気が付くとともに，普段の授業や生活の中で何に力を入れていかなければならないかという課題を明確にすることができ，目標をもって学習に取り組むようになった。

パフォーマンス課題を成功させるためには，生徒が自信をもって取り組めるように十分準備してパフォーマンステストに臨ませることが必要である。生徒は即興で会話を始めたり続けたりすることができるような力を身に付けたいと望んでいる。そのために，日々の授業で，英語で質疑応答し合う帯活動や，本文理解の際に自分の考えや意見を述べさせる活動の工夫を図りたい。

４　成果と課題

○活用型言語活動としてのパフォーマンステストの実施は，教師が評価活動を授業の改善に生かすとともに，生徒自らが学習状況に気付き自分を見つめ直すきかっけとなった点で，指導と評価の一体化を図ることにつながった。

○パフォーマンステストの実施は，論理的な思考力と表現力を発揮しながら客観的に誰にでも分かるように表現しようとする力が自然と育ってくるような学び合い学習となった。

○パフォーマンステストにおける協同の学び合いは，豊かな本物のコミュニケーションの楽しさを感じさせるとともに，英語を使ったコミュニケーションに対する自己効力感の醸成につながった。

●習得した言語材料を実際に使用し緊張したり失敗したりする経験こそが，談話能力を伸長させることにつながると実感できるような指導の工夫が必要である。

●インプット（理解力），アウトプットに向けての準備（思考力・判断力），アウトプット（表現力）の相関関係を明確にすることで思考の可視化を図ることが必要である。

●ルーブリックの作成をはじめとした評価の研究・審議を行い，より客観性・妥当性のあるものにしていく必要がある。

参考文献

大井恭子・田畑光義・松井孝志（2014）「パラグラフ・ライティング指導入門―中高での効果的なライティング指導のために」大修館書店

西岡加名恵（2008）「『逆向き設計』で確かな学力を保証する」明治図書

研究（その2）

自律的学習者が育つ英語授業

― パフォーマンステストの実践より ―

（実践者）河野　圭美

1　研究テーマ設定の理由

グローバル化がますます進展することが予想される次代に生きる生徒には，異なる文化や歴史的背景をもつ人々と共存し，課題をよりよく解決することができる資質や能力が求められている。そのために，英語を知識として蓄積するだけの学習者ではなく，学んだことを積極的に使っていき，更にそれらを伸長させようとする自律的学習者を育成しなければならない。

そのために，昨年度有効であったパフォーマンステストを取り入れた授業作りを行う。コミュニケーション能力を測るパフォーマンステストでは，身に付けた知識を使いこなすことが求められる。知識を詰め込むだけではなく，授業において知識を活用して課題を解決していく過程において，生徒たちの思考力・判断力・表現力も育成されていくものと考える。本年度は，「話型」を活用した学び合いや，「逆向き設計テンプレート」による指導や評価方法を充実させることでコミュニケーション力を育成したい。

持続可能な社会を形成するためには，様々な考えをもつ人々が良好な関係を築きながらコミュニケーションを図っていくことが必要である。良好な関係の上に成り立っているコミュニケーションとは，相手の言いたいことを理解して適切に応じたり，自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝えたりすることである。つまり，論理的に思考し表現する力である。この力を生徒同士の学び合いの場面でも発揮させることで，自ら学んでいこうとする姿勢や表現力の向上につながると考える。

以上のように，「自律的学習者が育つこと」を意図して授業を構成することにより，自分の気持ちや考えを表現し伝える力を育成することができると考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容及び方法

(1)　資質・能力を高めるための協同的な学び合いの充実

生徒が目指す姿に向けて他者と対話しながら学んでいくことは，人と関わり合う力を育てたり自分自身の成長や良さに気付き自尊感情が醸成されたりする学びにもつながる。グループで練習し，相手ができていない点についてアドバイスし合わせることで，他者と共によりよいものを生み出していくことを価値として自覚させたい。

ア　話型を活用した学び合い

昨年度もパフォーマンステストに向けて，友だちのパフォーマンスについてグループでアドバイスをし合う活動を行ったが，何をどのようにアドバイスすればよいか困っていた生徒もおり，深まりのある学び合いになっていないグループもあった。そこで本年度は，「話型」を用いて話し合わせることで，友だちへのアドバイスの際，思考の手助けになったり，友だちからの適切なアドバイスで自分のパフォーマンスが磨かれたりすることで，思考力・判断力・表現力の向上を目指したい。

イ　相互評価の充実

パフォーマンステストに向けて，培った論理的思考力や表現力を測るための評価基準を明確にした評価表を用いて相互評価を行わせる。目標に対して，自分の成長や課題を発見すると，自信につながったり新たな目標をもったりでき，生徒のやる気やメタ認知能力は高められる。また，

これらの学びをポートフォリオにまとめさせることで，生徒は具体的で効果的な解決策を考えることができ，自律した学習者に近づくことができる。

(2) 資質・能力を育成するための指導の充実

目標を達成するための具体的な手立てとして，「逆向き設計テンプレート」を作成する。「逆向き」と呼ばれる所以は，単元末・学年末・卒業時といった，教育によって最終的にもたらされる成果（「結果」）から遡って教育を設計する点，また通常，指導が行われた後で考えがちな評価方法を先に構想する点にある（西岡，2016）。「逆向き設計テンプレート」を作成することにより，単元で身に付けさせたい力，指導方法や評価方法が明確になり，指導と評価の一体化が図られる。また，「CAN-DOリスト」での目標が反映されたテンプレートを作成し，身に付けてほしい力を明確にすることで，生徒が主体的に学習したり，教師が授業の改善を図ったりすることができる。これらのことを通して，生徒の資質・能力を育成したい。

(3) 知識・技能を効果的に習得するためのデジタル教科書の活用

パフォーマンステストを年に複数回行うためには，それに必要な時間を作り，生徒に力を付けさせなければならない。そのため，デジタル教科書を活用することで，コミュニケーションを支える「知識・技能」をより効率的・効果的に習得させたい。これらの結果として，日々の授業で言語活動のための時間を生み出すことができ，コミュニケーション力の向上が期待できる。

3 研究の実際

(1) 生徒の実態

生徒は１年生の頃，年複数回パフォーマンステストを行った。「魅力ある speaker」と「思いやりのある listener」を目標とし，アイコンタクトや笑顔，リアクションなどのコミュニケーション技術に加え，英語で質疑応答する力や，コミュニケーションストラテジーを積極的に用いて，自然な対話ができる力を身に付けている。最初は緊張して全体の場で発表することが苦手だった生徒も，徐々に人前で自分を表現することの楽しさを味わったり，パフォーマンステストの有用性を感じたりすることができた。パフォーマンステストにおいて生徒が一番難しいと感じていたことは，友だちの発表を聞いた後で行う質問であった。何を聞けばよいのか質問内容が思い浮かばずスムーズにコミュニケーションができなかったと感じる生徒が多くいた。そこで本年度は，質問する力の育成も重視して日々の授業を構成した。特に，全校的に取り組み始めた「問答ゲーム」（相手からの問いに自分の考えをはっきりと分かりやすく伝えるゲーム）とのつながりをもたせて，６Ｗ１Ｈを意識して質問させることが有効であると考えた。

本年度は，12月までに３回教科書本文の音読テストを行った。ほとんどの生徒はすらすらと読むことができるが，本文の内容が伝わるような音読ができる生徒は数名であった。テスト後に書かせた感想では，上手な生徒の音読を聞くことで，強弱を付けたりポーズを取ったりしながら読むと聞き手に伝わる音読になることが分かったと多くの生徒が書いていた。また，与えられたテーマについて英語で書く活動においては，決められた数の文を書くことはできるが，自分の気持ちや考えなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりを意識したり，文を付け加えて詳しく書いたりすることには課題が残る。以上のようなことから，本単元で，自分の言いたいことが相手に伝わる内容や話し方を意識させる指導を行った。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

論理的表現力を「聞き手の納得が得られるようにスピーチを構成し，分かりやすく伝える力」とした。これを発揮しながら教科の研究テーマに迫れるよう，前述のような生徒の実態も踏まえ，以下の二つのことを取り入れた。

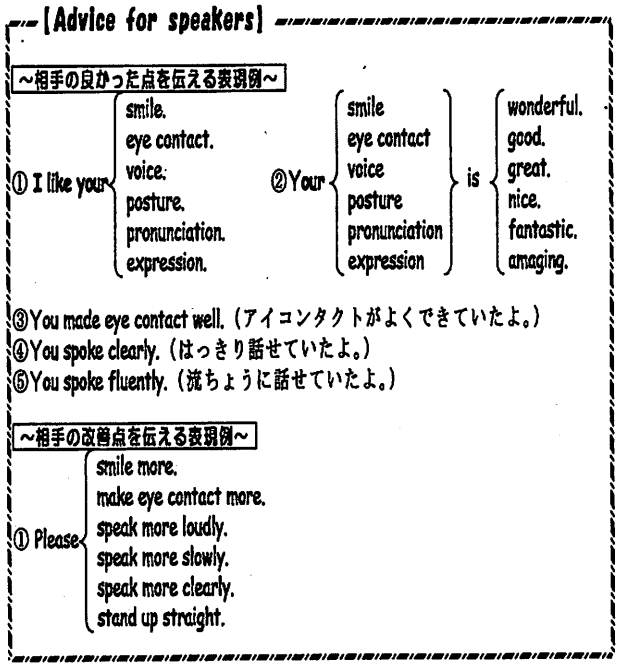
一つ目は，スピーチ原稿を作らせるとき，文と文のつながりや構成を意識して作らせたことである。その際，ルーブリック（**表１**）をあらかじめ示すことで，読み手に分かりやすい原稿となるよう意識して作成させた。

二つ目は，「話型」を取り入れたことである。本単元では，以下の２種類の話型を作成した。「友だちのスピーチについて良かった点や改善点を伝えるときの話型（**資料１**）」，「感想を述べたり質問をしたりするときの話型（**資料２**）」である。論理的に思考し，それを表現させるために，まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考えた。そして話型を手がかりにしながら，少しずつ自由に自分の気持ちや考えを表現できる生徒の姿を目指した。「感想を述べたり質問をしたりするときの話型」は６Ｗ１Ｈを用いたものを紹介した。昨年度のパフォーマンステストでは，友だちのスピーチの後で，質問をすることに不安を感じていた生徒が多くいたため，本年度は問答ゲームの６Ｗ１Ｈを意識して質問させた。帯学習では，毎時間２名の生徒がそれぞれ30秒ずつスピーチを行った後で，６Ｗ１Ｈを意識して対話させる活動を行った。

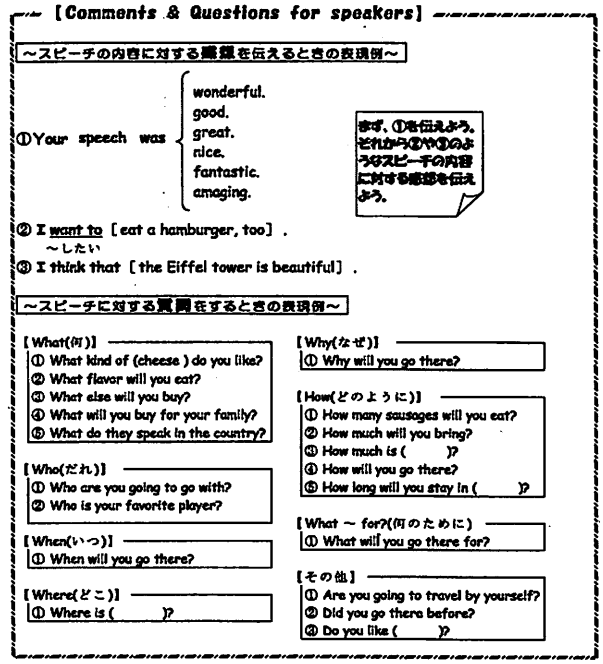
自分の気持ちや考えを表現できる生徒の育成につながるよう，以上の二点を工夫して指導した。

表１　スピーチ原稿評価のためのルーブリック

内容 文法	A	与えられたテーマについて事実の羅列だけでなく，３文以上はその事実について詳しく理由や例を挙げて，相手に分かりやすい英語で表現できる。既習の英語に少し間違いがある程度である。
	B	与えられたテーマについて，事実の羅列だけでなく，１文はその事実について詳しく理由や例を挙げて，英語で表現できる。または，１文以上は事実について詳しく理由や例を挙げて表現できているが，既習の英語に間違いが多い。ただし，理解の妨げにはならない。
	C	与えられたテーマについて，事実の羅列だけになっている。または，既習の英語に理解の妨げになるような間違いが多い。



資料１　友だちのスピーチについて良かった点や改善点を伝えるときの話型



資料２　感想を述べたり質問をしたりするときの話型

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 単 元 名　　TOTAL ENGLISH 2 Chapter 2 Project 旅行の計画を立てよう

(イ) 単元目標

○will や be going to を用いた文構造を理解し，海外旅行の計画について表現することができる。
○友だちの発表を聞いて，感想を言ったり質問したりすることができる。

〔本質的な問い〕

どうすれば，海外旅行計画を題材にして友人と英語で豊かなやりとりができるか。

〔永続的な理解〕

海外旅行計画を立てるためには自分の興味・関心に応じて国を選び，その国の文化やその国に行くときの手続きなどについて知る必要がある。また，意志未来の予定を表すときには will を用い，はっきりと予定が決まっている状況では be going to を用いて表現することが重要である。旅行計画について伝えるときには，文の構成に沿って話すとともに，行く場所やすることなどに加えて，その理由や自分がなぜ魅力的に感じるのかなどについて述べるとよい。聞き手は６Ｗ１Ｈを意識して聞くことが大切である。これらにより，他者と豊かなやりとりをすることができる。

(ウ) 「逆向き設計テンプレート」による単元計画

<table>
<tr><th colspan="2">第１段階：求められている結果</th></tr>
<tr><td colspan="2">【本単元における目標】
(a) 研究テーマに対して：
海外旅行計画について，聞き手に伝わるように工夫してスピーチをすることができる。
(b) 「論理的に思考し表現する力」に対して：
• 海外旅行計画について，自分の気持ちや考えが伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くことができる。
• 海外旅行計画について，友だちと質問したり感想を述べ合ったりして，自然な対話をすることができる。</td></tr>
<tr><td>永続的な理解　　省略</td><td>本質的な問い　　省略</td></tr>
<tr><td colspan="2">【生徒は次のことができるようになる】
(a)について：
• アイコンタクトをとりながら笑顔で話すことができる。
• 正しい姿勢で話すことができる。
• 適切な声の大きさで話すことができる。
• 大切な言葉は強調して話すことができる。
(b)について：
• 海外旅行計画について，文と文のつながりを意識しながら，８～10文程度で読み手に分かりやすいスピーチ文を書くことができる。
• 海外旅行計画について，事実の羅列だけでなく，３文以上は理由や例を挙げて読み手に分かりやすい英語で表現できる。
• 友だちのスピーチに対して，話型を手がかりにして，６Ｗ１Ｈを用いて英語で質問したり，感想を述べたりすることができる。</td></tr>
<tr><th colspan="2">第２段階：評価のための証拠</th></tr>
<tr><td>(a)に対して：
パフォーマンス課題　省略</td><td>他の根拠
• 音読テスト　• 自己&相互評価　• ポートフォリオの自己分析についての記述</td></tr>
<tr><td>(b)について：
パフォーマンス課題　省略</td><td>他の根拠
• ペアでの30秒スピーチの様子　• ペアでの30秒スピーチの原稿
• 言語活動の様子　• 自己&相互評価表
• ポートフォリオの自己分析についての記述</td></tr>
<tr><th colspan="2">第３段階　学習計画</th></tr>
<tr><td colspan="2">1　本文を読んだり聞いたりして内容を正しく理解する。
2　自分の興味・関心に応じて海外旅行で行きたい国を選び，海外旅行の計画を立てる。
3　英文の特定の内容について理由や情報を加える。英文を練り直す。
4　海外旅行計画について自然な対話ができるよう，練習する。
5　パフォーマンステストを行う。ポートフォリオをまとめる。</td></tr>
</table>

(エ) 評価目標と評価方法

評価目標	評価方法
①例文を参考にして，スピーチ原稿を熱心に書いている。 ②話型を用い，ペアで積極的に対話を続けようとしている。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度） ③海外旅行計画について，読み手に分かりやすく文のつながりを意識して，8～10文程度で書くことができる。 ④スピーチ原稿を元に，ペアで質問したり感想を言ったりして，会話している。　（外国語表現の能力） ⑤正しい語順や語法・話型を用いて文を構成する知識を身に付け，コミュニケーションの手段として適切に運用している。　（言語や文化についての知識・理解）	◎パフォーマンス課題 もうすぐ夏休みです。あなたは，夏休みに海外旅行に行くことになりました。行き先，してみたいこと，買いたいもの，食べたいものなどについて計画を立ててください。それぞれのことについて1文だけでなく，そうしたい理由などを述べると，相手を惹きつける文章になります。今までに学習した表現を使って，分かりやすい内容に仕上げてください。そして，友だちの旅行計画を聞いて，感想を言ったり質問したりしなさい。　(②④⑤) ○観察（①） ○ワークシート（③）

話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	書くこと
海外旅行計画に関するスピーチについて表現集を参考にしながら簡単な英語を用いて感想を述べたり質疑応答したりすることができる。	海外旅行計画について，聞き手に伝わるように，理由なども述べながらスピーチをすることができる。	海外旅行計画について，自分の気持ちや行きたい理由などを述べる表現を用いて10文程度のまとまりのある英語で書くことができる。

2年生　Chapter2 の単元における CAN-DO リスト（話すこと・書くこと）

1 Eye contact & Smile

アイコンタクトをしながら，自然な笑顔でできている		
A（2点） 2つともできた	B（1点） 1つできた	C（0点） ひとつもできなかった

2 Good posture & Clear voice

よい姿勢で大きな声でできた		
A（2点） 2つともできた	B（1点） 1つできた	C（0点） ひとつもできなかった

3 Pause & Stress

ポーズをとったり大切な語を強調したりして読んだ		
A（2点） 2つともできた	B（1点） 1つできた	C（0点） ひとつもできなかった

4 Comments

スピーチの内容に対するコメントを2文話そう		
A（2点） 表現例①～③の中から2種類使えた	B（1点） 表現例①～③の中から2種類使えた	C（0点） コメントできなかった

5 Questions

スピーチの内容に対する質問をしよう		
A（2点） 正確な文法で質問できた	B（1点） 文法に間違いはあったが質問できた	C（0点） 質問できなかった

パフォーマンステストで用いたルーブリック

(オ) 指導計画（全5時間）

学習内容	◇評価規準（観点）	時間
○本文を読んだり聞いたりして内容を正しく理解しよう。 ○自分の興味・関心に応じて海外旅行で行きたい国を選び，海外旅行の計画を立てよう。 ○英文の特定の内容について理由や情報を加えよう。 ○英文を練り直そう。	◇文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。（表現） ◇相手に理解してもらえるように，難しい言葉を別の語句や表現で言い換えるなど工夫して書いている。（関心・意欲・態度） ◇2つの未来表現（will, be going to）の違いを理解して文章を作っている。（知識・理解）	3
○海外旅行計画について自然な対話ができるよう，練習しよう。 ○パフォーマンステストを行おう。 ○ポートフォリオをまとめよう。	◇話型を用いて，スムーズに対話を続けようとする。（関心・意欲・態度） ◇友だちの発表を聞いて，英語で感想を言ったり質問したりしている。（表現）	2

㈦ 授業の実際（4／5時間）

① 主　題　友だちの海外旅行の計画を聞いて，感想を言ったり質問したりしよう。

② ねらい

○話型を用いて，積極的に対話を続けようとする。

○友だちの発表を聞いて，英語で感想を言ったり質問したりすることができる。

③ 展　開

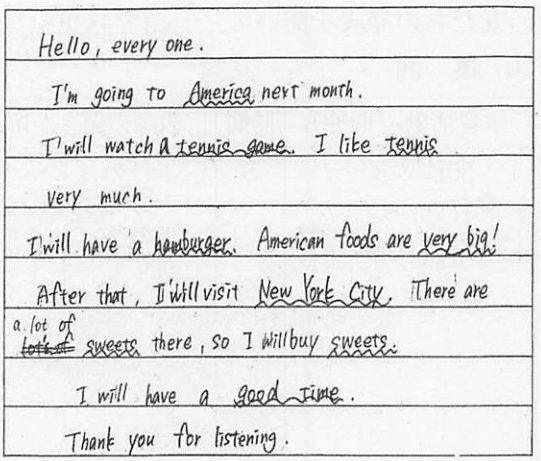
学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・生徒の主な反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　30秒スピーチを行う。（一斉）	5	○本日のスピーカー２名はスピーチをしよう。それぞれのスピーチの後で，その内容に関して質問をし合おう。	○論理的な思考が身に付くよう，６Ｗ１Ｈを意識して質問させた。 ○スピーチを集中して聞かせるため，スピーチを行う２名以外の生徒にはメモを取りながら聞かせたり，聞き取った内容を英語で伝えさせたりした。 ◇友だちの発表を聞いて，質問することができる。（観察）
CAN-DO　友だちの海外旅行の計画を聞いて，感想を言ったり質問したりできる。			
2　目標を確認する。（一斉）	3	○ねらいを達成するための具体的な目標を確認しよう。	○ゴールの姿を生徒に示すことで，学習に主体的に取り組もうとする意欲につなげた。
3　パフォーマンステストに向けて練習をする。 （ペア） ↓ （グループ）	37 (7) (5) (25)	○ペアで練習し，声の大きさ，アイコンタクトなどについてアドバイスし合おう。 • I like your smile. • Your voice is clear. • You made eye contact well. • Please speak more loudly. ○グループ練習のモデルを見て役割を確認しよう。 ○グループで，英語で感想を言ったり質問したりすることができるよう練習しよう。 〈感想を言うとき〉 • I want to eat a hamburger, too. • I think that the Eiffel tower is beautiful. 〈質問するとき〉 • Who is your favorite player? • Are you going to travel by yourself?  グループでの練習	 ペアでの練習 **○論理的に思考し表現できる力が身に付くよう，話合いのときや英語で感想を言ったり質問したりするとき，話型を用いさせた。【協同】** ○グループ練習の前に，話合いのモデルを見せたり，評価の観点を確認させたりすることで，活動させやすくした。 ○評価表を用いることで，達成度合いを知り，さらなる高みを目指して，修正・改善を行わせた。 ◇話型を用いて，積極的に対話を続けようとする。（観察・自己評価表） ◇英語で感想を言ったり質問したりすることができる。（観察・相互評価表）
4　本時の学びを振り返る。（個人）	5	○本時のねらいが達成できたか振り返ろう。	○課題や良かった点を振り返させることで，次のパフォーマンステストに向けて意欲をもたせた。

イ　生徒の学びの実際

パフォーマンス課題で用いたルーブリックによる評価の結果（２年生１クラス39名対象），生徒のスピーチ原稿（**資料２**），と生徒の感想は以下の通りであった。

〈原稿を作成するとき：教師による評価〉

内容 文法	A	与えられたテーマについて事実の羅列だけでなく，３文以上はその事実について詳しく理由や例を挙げて，相手に分かりやすい英語で表現できる。既習の英語に少し間違いがある程度である。	17人
	B	与えられたテーマについて，事実の羅列だけでなく，１文はその事実について詳しく理由や例を挙げて，英語で表現できる。または，１文以上は事実について詳しく理由や例を挙げて表現できているが，既習の英語に間違いが多い。ただし，理解の妨げにはならない。	20人
	C	与えられたテーマについて，事実の羅列だけになっている。または，既習の英語に理解の妨げになるような間違いが多い。	２人


Hello, every one.
I'm going to America next month.
I will watch a tennis game. I like tennis very much.
I will have a hamburger. American foods are very big!
After that, I will visit New York City. There are a lot of ~~lot's of~~ sweets there, so I will buy sweets.
I will have a good time.
Thank you for listening.

資料２　生徒のスピーチ原稿

〈パフォーマンステストのとき：生徒による自己評価〉

項　目	A	B	C
アイコンタクトをしながら，自然な笑顔でできている	19人	20人	０人
よい姿勢で大きな声でできた	25人	14人	０人
ポーズをとったり大切な語を強調したりして読んだ	19人	20人	０人
スピーチの内容に対する感想を２文話そう	34人	５人	０人
スピーチの内容に対する質問をしよう	33人	５人	１人



パフォーマンステスト（質疑・応答）の様子

〈生徒の感想〉
○与えられていた英語表現から派生して，自分で考えた表現を使って，感想を伝えることができた。
○自分がやりたいと思っていた，スラスラ英語を話す，と言うことがしっかりできた。
○僕は英語でコメントを伝えたり質問をしたりするのが苦手だった。でも，今回プリント（話型）を見ながら言うととても楽しかった。

ウ　考　察

すべての生徒が論理的に思考し，それを表現させるために，まずはその型をしっかりと身に付けさせることが大切であると考え，話型を与えた。生徒の感想にあるように，英語が得意な生徒にとっては，話型を与えたことで様々な表現を使おうとチャレンジすることができた。また，英語が苦手な生徒にとっては，英語が話せる喜びを感じていた。

友だちのスピーチの後で質問をしたり感想を言ったりする評価は８割以上の生徒はＡであった。評価がＡの生徒は，教師が与えた話型の中から自分の感想を伝えた者がほとんどであった。また，Ｂ評価の生徒のほとんどは，プリントを見ながらなんとか伝えることができたり，１文伝えるのが精一杯であったりというのが実態である。感想は伝えられてもスピーチの内容に合っていないものもあった。

話型の導入は思考力・判断力・表現力を育成する手立てであった。今後少しずつ話型から発展し，自由に自分の気持ちや考えを表現できる生徒の姿を目指したい。

4　成果と課題

(1)　資質・能力を高めるための協同的な学び合いの充実

「グループで話合いをさせるときの話型（**資料3**）」を用いさせたり，評価表を用いて相互評価させたりしたことで，どのグループも話合いを円滑に行うことにつながり，生徒同士で表現力を高め合うことができた。来年度，ポートフォリオについては，自分の学習のあり方について考えたり，自分の目標達成のために役立ったりするようなものになるよう研究したい。

〈生徒の感想〉
○友だちのパフォーマンスを見て，パフォーマンスの工夫をたくさん知ることができた。
○友だちのパフォーマンスから，話すときに，こうしたらいいなという強弱の仕方やポーズが分かった。
○自分だけでは見付けることができないミスなどを友だちが積極的に指摘してくれたのでとても良い話合いとなった。

グループの話合いの司会進行

☆Listener はメモを取りながら話を聞くと、後でやりとりしやすい
☆　Speaker は Listener とのやりとりが終わるまで座らない

1．スピーチをする

2．Speaker と Listener がやりとりをする
①Do you have any comments and any questions,(Listener 1 の名前)?
②（Speaker と Listener 1 のやりとり）
③Thank you,（listener 1 の名前）.
④Do you have any comments and any questions,(Listener2 の名前)?
⑤（Speaker と Listener 2 のやりとり）

3．Listener の評価をする
①Let's evaluate（Listener1 の名前）'s comments and questions.
②（Listener 1 の評価についての話し合い）日本語 OK
③（Listener 1 は話し合って決まった評価をワークシートに記入する）
④Let's evaluate（Listener2 の名前）'s comments and questions.
⑤（Listener 2 の評価についての話し合い）日本語 OK
⑥（Listener 2 は話し合って決まった評価をワークシートに記入する）

資料3　グループで話合いをさせるときの話型

(2)　資質・能力を育成するための指導の充実

逆向き設計テンプレートを活用し単元を計画することで，見通しをもって明確に指導することができた。また，「本質的な問い」「永続的な理解」「パフォーマンス課題」を設定することは，生徒の「なぜ英語を勉強しなければならないのか」や「英語を勉強することが将来，何の役に立つのか」といった疑問を解決するものであると考える。

「CAN-DOリスト」と対応させて身に付けてほしい力を明確にしたことで学習意欲が向上した。また，目標について振り返りを行わせたとき，「次は～ができるようになりたい」という主体的な気持ちが生まれ，自律的学習者に必要な態度や姿勢を身に付けることができた。

(3)　知識・技能を効果的に習得するためのデジタル教科書の活用

教科書の本文内容理解においてデジタル教科書を活用した。導入では，映像資料やピクチャーカードを見せた。また音読練習では，英文と日本語を同時に表示してオーバーラッピングを行ったり，だんだん速さを速くしたりしながら練習させた。本文を解説する際は，ペンツールを用いて書き込みをしながら説明した。紙の教科書のみを使用していた時より，生徒は生き生きと授業を受けるようになり，学ぶ意欲が高まり理解も深まるなど，学びを充実させるものであった。デジタル教科書では「聞く・話す」の活動を以前よりも効率的に行うことができるようになり，インプットの量も増えたため，listening や speaking の力が高められた。今後もデジタル教科書を上手く活用し，知識・技能を効果的に習得させることで，コミュニケーション力を高めたい。

参考文献

西岡加名恵（2016）「教科と総合学習のカリキュラム設計」図書文化社
佐藤　一嘉（2014）「ワーク＆評価表ですぐに使える！英語授業を変えるパフォーマンス・テスト　中学２年」明治図書

研究（その3）

ディスカッションの成功を目指した学習活動の研究

（実践者）河野　操

1　研究テーマ設定の理由

国際化社会において，外国語は言語や文化が異なる多様な人間同士をつなぐものである。そのため外国語教育では，スキルの習得だけでなく，習得したスキルを活かし，個性や考え方が異なる他者とも意見交換などを通して積極的にコミュニケーションを図り，よりよい関係を築こうとする態度が求められる。互いの考えを理解し合い，折り合いをつけながらよりよい関係を築こうとする態度は，「持続可能な社会」の形成に必要な資質・能力であると思われる。本研究では，ディスカッションを成功させるための学習活動を工夫したい。ディスカッションを成功させるためには，理由や根拠を明確にしてテーマに沿った自分の意見を述べたり，相手の意見に賛成なのか，反対なのか，を理由や根拠を交えて説明したりする必要がある。また，スムーズにディスカッションをするためには，あらかじめ用意しておいた英語以外に，相手の意見を聞いた後ですぐに返答することができる即興性も必要とされる。既習文法を使って，内容にまとまりがあり，相手を納得させる英語をいかに作っていけばよいか，効果的な学習活動を検討したい。そのためには，相手が話している英語を細部まで理解できる「聞く力」，筋道の通ったまとまった英文を考え「書く力」，相手に納得してもらうために効果的な「話す力」を総合的に生徒に身に付けさせなければならない。友だちから多様な意見を聞き，互いに学び合いながら課題を解決することによって，英語でのディスカッションを成功させる学習活動に取り組みたい。

2　研究の内容及び方法

(1)　問題解決的な学習の充実

教科書の活動一つ一つは，各レッスンや単元における英語学習においてテキストなどとつながって重要な役割を果たしている。しかし，そこからさらに発展した内容や言語活動を駆使して，教室外での言語活動が可能となるような課題解決を目的とした活動が必要である。以上のことから，教科書の活動をもとにして，どのような内容を組み込むことにより，また，どのように場面設定を工夫するかによって，課題解決型の言語活動とすることができるかを研究する。

(2)　協働の学び合いの場の充実

英語でディスカッションをする場合，英語の苦手な生徒にとっては，越えなければならないいくつかの壁がある。テーマに沿った課題を解決するために，グループの一人一人に speaker, listener , writer などの役割を与え，まとまった内容の英文を完成させることにより，学び合いの中で英語が苦手な生徒もディスカッションに取り組む意欲をもたせたい。

(3)　自己または相互評価をもとにした振り返りの充実

活動中に相互評価をさせたり，活動後に自己評価をさせたりすることにより，次の活動の改善に役立たせたり，よりよい内容の英文になるよう工夫させたりする機会をもたせる。今まで，できていなかったことが「できるようになった」，活動を重ねて「前よりよくなった」ということを実感させることは，生徒たちが自己の成長を確認でき，次の活動への意欲付けにもつながる。

3　研究の実際

(1)　生徒の実態

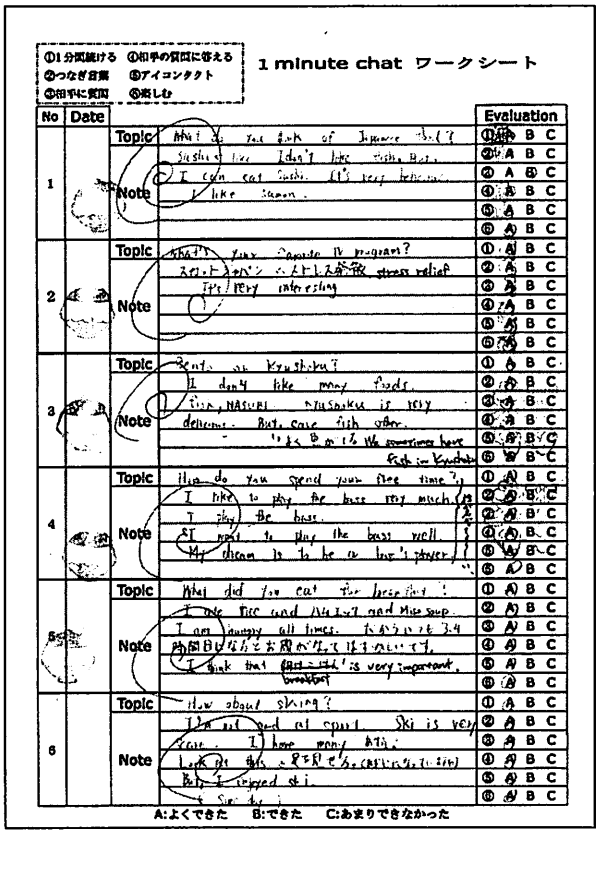
本実践の生徒第３学年（男子20名，女子20名，計40名）は，33人が英語学習に興味をもち，積極的に授業に臨んでいる。授業中の発言も多く，友だちと協力して練習するペア活動やグループ活動にも意欲的に取り組んでいる。英語に対する興味・関心が高い生徒もそうでない生徒も，外国の人々とすらすら話せるようになりたいという希望をもっている生徒が多い。一方で，英語に興味・関心はあっても，正しい英文を書いたり，まとまった英文を読んだり聞いたりすることが苦手な生徒もいる。これまでの学習で，様々なテーマのもとプレゼンテーション活動に取り組んできた。自ら資料を収集し，説明文を完成させ，英語でスピーチする活動に親しんできている。しかし，発表については，用意した原稿を覚えて発表するだけの活動にとどまっていた生徒も多かった。

以上のことから，単なるスピーチに終わることなく，４技能を総合的に取り入れた言語活動を設定することにより，英語が得意な生徒も苦手な生徒にも，興味・関心を維持させつつ，英語で意見交換することができる力を高める指導の必要性を感じている。

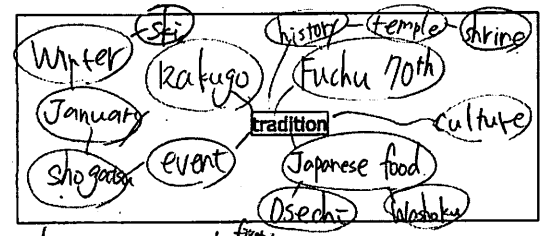
(2)　論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

相手が発言したことに対して，自分の意見を言うとき，あまり時間をかけずに即興で英文を作り，答える必要がある。そのために，日々の授業の中で，１分間チャットをしてテーマに沿った内容についてペアで対話活動を行った。まずは２分間 thinking time を与え，テーマに関連する英文を考えさせる。thinking time の間は，習っていない単語については，辞書を活用させた。その日のチャットが終了したらワークシートを回収し，教師が添削を行いフィードバックした。**（資料１）**また，既習単語を使って語彙力を高める活動として，キーワードから連想できる単語を集め，その後に集めた単語を使って英文を作成する練習も行った。**（資料２）**

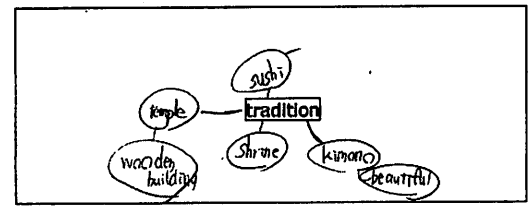
資料１　１分間チャットのワークシート



資料２　単語の連想から英文作成の過程



Sho gatsu is the first day of the year.
Kakugo is a Japanese traditional performance
Osechi is a Japanese traditional food
which we eat on New Year's Day.



I like temples and shrines.
I've eaten sushi.
There are many wooden buildings.
Nara and Kyoto have many traditional buildings.

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 単 元 名　TOTAL ENGLISH 3 Chapter 4 Project 自分の意見を言おう

(イ) 単元目標

○ 整った英文を使ったまとまりのある英文で自分の意見を書くことができる。

○ 他者の意見を聞き，理由や根拠を含んで自分の意見を述べることができる。

〔本質的な問い〕

どうすれば，既習方法を使って相手を納得させる意見を英語で述べることができるか。

〔永続的な理解〕

あるテーマについて相手に自分の意見を述べるとき，まずは自分の考えをまとめる必要がある。意見をまとめる際は，トピックセンテンスで自分の立場を明らかにし，サポーティングセンテンスで理由や根拠を述べ，コンクルーディングセンテンスでまとめを述べるという内容にすれば，相手を納得させる内容にすることができる。

(ウ) 評価目標と評価方法

評 価 目 標	評 価 方 法
① 積極的に自分の意見を述べようとしている。 （コミュニケーションへの関心・意欲・態度）	◎パフォーマンス課題 次の４つのテーマについて自分たちの意見を述べたり，他のグループの人たちの意見を聞いて，反対意見を述べたりするなど，意見交換をしなさい。(②③④) 〈意見交換テーマ〉 (a) Which do you like better, reading or playing ? (b) What do you think of Mr. Trump ? (c) What Japanese food do you recommend to foreign people ? (d) What do you think of the tradition in Fuzoku JHS ? ○観察 (①④) ○ワークシート (②)
② まとまりのある英文を書くことができる。 （外国語表現の能力）	
③ 相手の意見を聞いて内容を理解することができる。 （外国語理解の能力）	
④ ディスカッションをするときの決まった表現を理解している。 （言語や文化についての知識・理解）	

資料３　パフォーマンステストで用いたルーブリック

評 価	A	B	C
Speaker	相手に目線を合わせて，理由や根拠を含めた内容の英文を話すことができる。	意見のみの発表で，理由や根拠が含まれてない。	下を向いたり，原稿を見たりしながら棒読みである。自分たちの意見をほとんど言えてない。
Writer	主語＋動詞～が整った英文を使って，具体例，根拠，理由などを明確に書くことができる。	主語＋動詞～が整った英文を使っているが，内容にまとまりがない。	整った英文になっていない。(単語のみの羅列など)

㈡ 指導計画（全４時間）

○学習内容	○評価基準（観点）	時間
○英単語から連想する単語を，マッピングを使って，集めよう。 ○集めた単語を使って英文を書こう。	◇関連するたくさんの単語を知っている。（知識・理解） ◇主語＋動詞の整った英文を書くことができる。（表現）	1
○ディスカッションで使える表現を学習しよう。	◇場面に応じた表現を適切に使うことができる。（表現）	1
○４つのテーマに沿って，グループでディスカッションをしよう。	◇自分たちの意見を積極的に述べようとしている。（関心・意欲・態度） ◇根拠や理由を入れて，主語＋動詞の整った英文を述べることができる。（表現）	2

㈢ 授業の実際

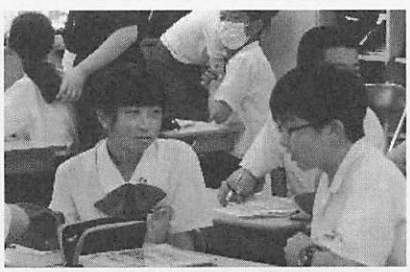
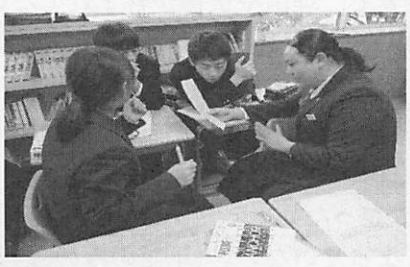
① 主　題　テーマについて意見交換をしよう。

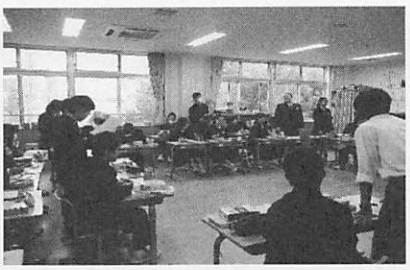
② ねらい

○整った英文を使ったまとまりのある英文で自分の意見を書くことができる。

○他者の意見を聞き，理由や根拠を含んで自分の意見を述べることができる。自分たちの意見を積極的に述べることができる。

③ 展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ・生徒の主な反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　Warm-upをする。（ペア）	3	○１分間チャットを行おう。  • My dream is to be a doctor like my mother, because I want to help many sick people.	○最初の２分間は thinking time として対話の内容を考えさせるための時間を与えた。また，内容を１分間続くように，つなぎの言葉を使わせたり，質問をさせたりした。
テーマについて意見交換をしよう。			
2　ディスカッションの準備をする。（グループ）	5	○テーマについてグループの意見をまとめよう。 	**○英語が苦手な生徒も意見交換に取り組めるように，writer が中心となり，班の意見を英語で書き，speaker が中心となって発表できるように役割分担をさせた。【協働】**

3　ディスカッションをする。 （一斉）	32	○グループでまとめた意見をもとに，ディスカッションをしよう。 	◇整った英文を使ったまとまりのある英文で自分の意見を書くことができているか。 （ワークシート） ◇他者の意見を聞き，理由や根拠を含んで自分の意見を述べているか。 （観察・ワークシート）
4　活動の振り返りを行う。 （個人）	10	○活動を振り返って，振り返りシートに記入しよう。	○自己評価を含んだ振り返りシートを用意し，本時の振り返りをさせた。

イ　生徒の学びの実際

テーマ決定後５分間でテーマの意見をまとめる時間をとった。その後，各グループのspeakerがグループの意見を発表した。生徒が実際に行ったディスカッションの内容を分析する。

テーマ：Which do you like better, reading or playing?

（グループA）speaker：We like playing better. Because playing sports is exciting and healthy.

（グループB）speaker：I agree with you. But we like reading better than playing. There are two reasons for this. First, we can enjoy reading if it rains. When we can't play outside, reading is good for us. Second, we can enjoy reading anywhere.

＜相手の意見を聞いて反論と質問を考える時間２分程度＞

（グループA）speaker：I think so, too. I have a question. If it rains, do you read in your room? That is not healthy, I think.

以上のように，自分たちの意見を，理由と根拠を含めて発表できている。それぞれの技能で能力差がある。そのため，グループ内で協力し，相手の意見の聞き取る生徒（listener），自分たちの意見を作文する生徒（writer），発表する生徒（speaker），他の班の評価する生徒（judge）というように，役割を分担させることにより，意見交換を成立させることができた。

本実践後，生徒に対してグループのディスカッションについて評価と振り返り（３年生37名）を行った。その結果と自由記述を以下に示す。

評価対象	評価	項　　目	人数
speaker	A	相手に目線を合わせて，理由や根拠を含めた内容の英文を話すことができた。	16
	B	意見のみの発表で，理由や根拠が含まれてない。	17
	C	下を向いたり，原稿を見たりしながら棒読みである。自分たちの意見をほとんど言えてない。	4
writer	A	主語＋動詞～が整った英文を使って，具体例，根拠，理由などを明確に書くことができた。	16
	B	主語＋動詞～が整った英文を使っているが，内容にまとまりがない。	17
	C	整った英文になっていない。（単語のみの羅列など）	4

(生徒の感想)

○今まで習ってきた文法を駆使して英文を考えることが楽しかった。また，他の班の意見を聞くことが新たな視点を身に付けることができた。

○speaker が特に難しかった。相手が先に述べたことに対して自分たちはどう考えているのか伝えることに苦労した。

○臨機応変に対応する英語力が必要だと思った。

○意見を考えようとしたときに，分からない単語がたくさんあって，単語力が必要だと思った。

ウ 考 察

英語でディスカッションさせるためには，４技能すべての能力を総合的に高める必要がある。振り返りにおける生徒の感想の中には，相手の意見の内容を理解していないと，関連した内容の応答や反対意見が言えない，語彙力がないと臨機応変に意見を述べることができない，というような意見があった。このことから，ディスカッションを成功させるためには，日々の授業で語彙力の向上を目指す活動や，まとまった内容の英語を聞かせる活動，即興で自分の意見を述べさせる活動を積み重ねないといけないと感じた。また，英語力の差に関しては，speaker, listener, writer, judge と役割分担させることにより，グループ内で協力してディスカッションに向かわせる準備が整い，意見交換を成功させることができたと考える。

４ 成果と課題

○グループ内で役割分担させたため，英語が苦手な生徒も意見発表に参加したり，自分の意見を考えたりすることができた。

○英語で話す機会をもちたいと考える生徒が多いため，英語での意見交換は楽しんで取り組める活動になった。

○単なるスピーチや単語を並べただけの対話ではなく，相手の意見を聞いてその内容に関連させた内容を述べたり，根拠や理由を含めた英文を述べたりする必要性を高めることができた。

●語彙力の未熟さから，即興や臨機応変に対応する難しさがある。

●生徒同士が１対１で意見を交換し合う英語力を高める必要がある。

参考文献

今井　典子・髙島　英幸（2015）「小・中・高等学校における学習段階に応じた英語の課題解決型言語活動―自律する学習者の育成」東京書籍

第３章　おわりに

本年次，新たな研究主題「自分の気持ちや考えを表現し伝える力の育成」を設定し，研究・実践を進めてきた。初年次ということもあり，成果だけでなく，たくさんの課題が明らかになったことは，我々にとって大きな収穫であった。

以下に，三つの研究内容について成果と課題を記す。

１　論理的思考力や表現力の育成

論理的思考力を高めるために，学校全体の取組として，問答ゲームを週１回行っている。英語科では，そのことを活かして，相手に自分の意見を伝えるときは，主語と動詞が整った英文を使うこと，相手と対話するときには，６Ｗ１Ｈを意識して質問することを言語活動の中で指導してきた。単なるスピーチや説明だけに終わることなく，英語を介して互いにやりとりができる能力を身に付けさせることを目指した。１年生では，他己紹介をした後に，内容について質問させる活動，２年生では，旅行の予定を発表し，その内容について質問させる活動，３年生では，テーマについて意見交換させる活動を行い，論理的思考力と表現力が向上するよう実践を積み重ねた。その結果，質問する，理由や根拠を含めて意見を述べるなど表現の型の定着は見られるようになったが，語彙力の問題もあり，文のつながりや構成における課題が見られた。今後，デジタル教科書を用いて，単語や本文の音読練習を効果的に行う時間をより多く確保するとともに，学んだ知識を習得・定着させるような帯活動を取り入れ，表現活動につながるように工夫したい。そうすることによって，インプットの量や質を高め，論理的思考力や表現力の育成につながると考える。

２　コミュニケーションスキルを磨く指導

CAN-DOリストを作成し，身に付けてほしい力を明確にしたことは，生徒が主体的に学習したり教師が授業の改善を図ったりするのに一定の効果があった。今年度の三つの研究では，一方的にスピーチを発信するだけなく，発信された内容について英語で実際にやりとりやディスカッションをする場を設定し，学習した言語材料を活用させた。そのことは語彙や文法の知識を定着させることにもつながった。また，このように本物のコミュニケーションに近いやりとりをさせることで，コミュニケーションストラテジーの大切さを実感させることができた。今後，教室の中に現実的な問題解決の場面を意図的に設定して言語活動を行い，持続可能な社会を支えるコミュニケーションスキルを身に付けることの大切さを実感できる学習活動を展開していきたい。

３　パフォーマンス評価の充実

パフォーマンス課題を与えたことは，生徒に学習の意義を感じさせ，前向きに学習に取り組むことにつながった。課題解決に向けて，知識やスキルを活用する力を評価することで，コミュニケーション力を育成することができた。また，指導の途中で学習者の実態を把握でき，指導と評価の一体化を図ることで，生徒の表現力が高まった。自己評価や相互評価をさせたことで，生徒のメタ認知能力が高まり，自ら新たな課題を見いだすことにつながった。今後更に，生徒の思考力・判断力・表現力を高められるよう，客観性・妥当性・実施可能性のある評価活動を取り入れる必要がある。